

- る野生生物・レッドデータブックあいち 2020—動物編—  
769 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課。  
秋山美文, 2020. 広島県のオオネクイハムシの記録. 月刊むし,  
(596): 58.  
林 成多, 2005. 日本産ネクイハムシ亜科の分布記録 (1) ミ  
ズクサハムシ属. ホシザキグリーン財団研究報告, (8):  
39–70.  
兵庫県編, 2012. 兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類). 兵庫県  
環境部自然・鳥獣共生課. URL [https://www.kankyo.pref.  
hyogo.lg.jp/environment/leg\\_240/leg\\_289/leg\\_709](https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/environment/leg_240/leg_289/leg_709) (2022  
年 7 月 5 日アクセス)  
石川県編, 2020. 石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いし  
かわレッドデータブック 2020 動物編. 339 pp. 石川県  
生活環境部自然環境課.  
川瀬英夫・富沢 章, 2014. トヤマオオネクイハムシの石川県  
からの発見. とっくりばち, (82): 1–2.  
岡山県野生動物植物検討会編, 2020. 岡山県版レッドデータブ  
ック 2020. 絶滅のおそれのある野生生物, 動物編. 812 pp.  
岡山県環境文化部自然保護課.  
末長晴輝, 2022. 岡山県におけるネクイハムシ亜科 (ハムシ  
科) の分布記録. 倉敷市立自然史博物館研究報告, (37):  
11–27.  
富山県編, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物. レッ  
ドデータブックとやま 2012. 451 pp. 富山県生活環境文化  
部自然保護課.

(末長晴輝 710–0803 倉敷市中島 108–011)  
(秋山美文 729–3511 神石郡神石高原町高光 3054)

### 【短報】千葉県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録とマルケシゲンゴロウの記録削除

サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Biström, 1997 は, ゲンゴロウ科マルケシゲンゴロウ属の小型種である (中島ら, 2020). 日本における本種の初記録が 2016 年に発表され (稲畑, 2016), それ以降各地のマルケシゲンゴロウ属の標本が再検討されたことにより, 現在の国内分布は本州 (群馬, 茨城, 埼玉, 静岡, 富山, 石川, 福井, 愛知, 岡山, 島根), 九州 (熊本), 南西諸島 (奄美大島, 徳之島, 伊平屋島, 沖繩島, 久米島, 池間島, 石垣島, 小浜島, 西表島, 与那国島) とされている (稲畑, 2016; 渡部ら, 2016, 2022; 渡部・保科, 2016; 戸田, 2017; 吉村・渡部, 2017; 末長ら, 2017; 亀澤・渡部, 2018; 仲田, 2018; 司村, 2018; 井上・渡部, 2018; 佐野ら, 2019; 林, 2020; Watanabe *et al.* 2020; 澤田ら, 2022; 渡部・吉富, 2023). これらの記録の中には, 過去にマルケシゲンゴロウ *H. subtilis* Sharp, 1882 と発表されていたものを再検討した結果, サメハダマルケシゲンゴロウであることが判明した事例も多い (渡部ら, 2016; 亀澤・渡部, 2018; Watanabe *et al.* 2020 など).

千葉県からのマルケシゲンゴロウの記録は, 信太 (1998) による佐倉市からの 1 雄のみである. 筆

者のうち中村は, この記録の再検討の必要性を感じ, 千葉県立中央博物館に所蔵されている証拠標本を確認した. 再同定の結果, この標本はサメハダマルケシゲンゴロウと同定された. これに伴い, 千葉県からのマルケシゲンゴロウの記録は抹消されることとなる. また, 筆者のうち菅谷と佐野は, 千葉県においてサメハダマルケシゲンゴロウを採集している. これらをあわせて千葉県初記録として報告する.

報告に先立ち, 標本調査に便宜を図ってくださった斉藤明子氏 (千葉県立中央博物館) に御礼申し上げる.



図 1. 千葉県産サメハダマルケシゲンゴロウ雌.

### サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Biström, 1997

1 ♂, 佐倉市太田, 2. VIII. 1997, T. Shida 採集, 千葉県立中央博物館保管 (登録番号: CBM-ZI111932) (信太, 1998); 2 ♀ (図 1), 山武郡横芝光町宮川乾草沼, 10. V. 2010, 菅谷採集, 渡部保管; 1 ♀, 大網白里町金谷郷 金谷池, 2. VII. 2011, 佐野採集, 保管.

### 引用文献

- 林 成多, 2020. 改訂島根県の水生甲虫 (1). ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (25): 1–84.  
稲畑憲昭, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ, (21): 46–47.  
井上大輔・渡部晃平, 2018. 池間島におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (29): 55–56.  
亀澤 洋・渡部晃平, 2018. 埼玉県からのサメハダマルケシゲンゴロウの記録とマルケシゲンゴロウの記録抹消. 寄せ蛾記, (170): 39–40.  
中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド 日本の水生昆虫. 351 pp. 文一総合出版.  
仲田彰男, 2018. 浜松市の旧養鰻池で採集した水生昆虫. 駿河の昆虫, (262): 7172–7175.  
佐野真吾・内田大貴・新中健斗・渡部晃平, 2019. 群馬県および茨城県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (34): 22–23.  
澤田研太・岩田朋文・惣名 実, 2022. 富山県におけるマルケシゲンゴロウ属の記録総括と現況. 富山市科学博物館研究報告, (46): 19–26.  
司村宜祥, 2018. 久米島から水生甲虫 2 種を記録. さやばねニューシリーズ, (29): 53.

信太利智, 1998. 佐倉市で採集した水生甲虫. 房総の昆虫, (20): 1-3.

末長晴輝・渡部晃平・山地 治, 2017. 岡山県におけるサメハダマルケシゲンゴロウとオオマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (28): 51-52.

戸田尚希, 2017. サメハダマルケシゲンゴロウが愛知県にも分布. 佳香蝶, 69 (271): 47-48.

渡部晃平・保科英人, 2016. 福井県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの記録と生息地保全に向けた対応. さやばねニューシリーズ, (24): 33-35.

Watanabe, K., N. Inahata, & O. Biström, 2020. A distributional review of the genus *Hydrovatus* (Coleoptera: Dytiscidae) from the Ryukyus, Southwestern Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 26 (1): 111-118.

渡部晃平・松井英司・長濱朋昭・中蘭洋行・稲畑憲昭, 2022. 九州におけるサメハダマルケシゲンゴロウ (コウチュウ目, ゲンゴロウ科) の初記録. 昆虫 (ニューシリーズ), 25 (4): 183-186.

渡部晃平・富沢 章・稲畑憲昭, 2016. 本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (23): 15-16.

渡部晃平・吉富博之, 2023. ゲンゴロウ科. 日本昆虫目録編集委員会 (編) 日本昆虫目録第 4 巻鞘翅目第 1 部, 8-27. 権歌書房, 福岡市.

吉村優杏・渡部晃平, 2017. 小浜島におけるマルケシゲンゴロウ属 2 種の初記録. さやばねニューシリーズ, (27): 27-28.

(中村 涼 113-8657 文京区弥生 1-1-1  
 東京大学農学生命科学研究科森林動物学研究室)  
 (菅谷和希 162-0832 新宿区岩戸町 18  
 日交神楽坂ビル (株) 環境指標生物)  
 (佐野真吾 239-0813 横須賀市鴨居 4-1120  
 観音崎自然博物館)  
 (渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊 3 番地  
 石川県ふれあい昆虫館)

**【短報】福岡県におけるホソアシカミキリモドキの記録**

*Xanthochroina tarsalis* (Kôno) ホソアシカミキリモドキは, Kôno (1937) によって鹿児島県種子島と台湾から新属 (*Anancosessinia*) 新種として記載された種である. その後, 屋久島や四国 (沖ノ島), 西表島から記録されたが, 溝田 (1998) は本種を「原記載以降まったく採集されていない“幻のカミキリモドキ”」として紹介している. また, 秋山 (2000) は原記載後の四国 (沖ノ島) の記録については標本が実見できなかったとし, 屋久島や西表島から記録された標本を実見した上で共に別種の同定間違いであるととし, 対馬を新産地として加えた. 現在までに知られる本種の分布記録は, 四国 (沖ノ島) ?, 対馬, 種子島, 台湾となる.

筆者は, 従来記録がなかった福岡県において本

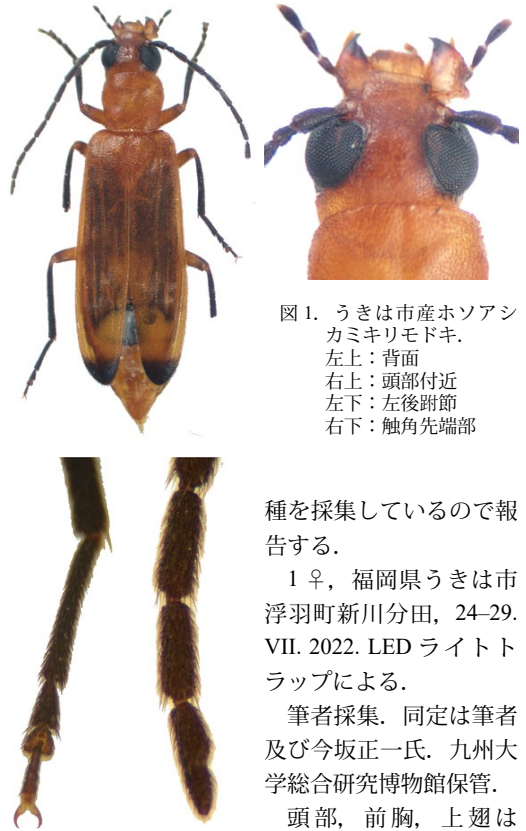


図 1. うきは市産ホソアシカミキリモドキ.  
 左上: 背面  
 右上: 頭部付近  
 左下: 左後跗節  
 右下: 触角先端部

種を採集しているので報告する.

1 ♀, 福岡県うきは市浮羽町新川分田, 24-29. VII. 2022. LED ライトトラップによる.

筆者採集. 同定は筆者及び今坂正一氏. 九州大学総合研究博物館保管.

頭部, 前胸, 上翅は黄褐色で翅端のみ黒色.

複眼から先の頭部が短く, 触角間は眼と眼の間より幅広い. 大あごは強く曲がり小あごひげ末端は広がらない. 触角末端節は側面の一部が削られる. 後跗節第 1 節は 2 ~ 4 節を合わせた長さより長い等の特徴がある.

採集地周辺は福岡県南東部, 大分県日田市と接する地域で, 標高約 200 ~ 500 m の緩い起伏の山地が広がる. また, 福岡県で最も林業が盛んな地域の一つで, 広大なスギ・ヒノキの人工林が広がり, 広葉樹からなる原生林・二次林はほとんど見られない.

本種を採集したのは, 標高約 320 m, U 字型にカーブしている幅 5 m 程の林道の中に残された, 長径約 60 m, 短径約 50 m の楕円形のエリアである. ここは, 採集地周辺では数少ない広葉樹の二次林である. 林相は貧弱で, シイやコナラ等の灌木からなり, 胸高直径 40 cm 程のアカマツが数本残存している. 林内にはよく日差しが入り, 乾燥している. 30 年ほどまでは, 現在よりアカマツ林が広く見られたという地である.

末筆ながら, 同定をはじめ, 貴重なご意見を頂いた今坂正一氏 (久留米市) に厚くお礼申し上げる.